

京都教育大学FDニュース

No. 83

2017年9月11日

京都教育大学FD委員会

本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、平成28年度教育学部後期授業アンケート及び平成29年度前期中間アンケート実施調査の結果について報告いたします。

1. 平成28年度教育学部後期授業アンケート

1. 調査の概要

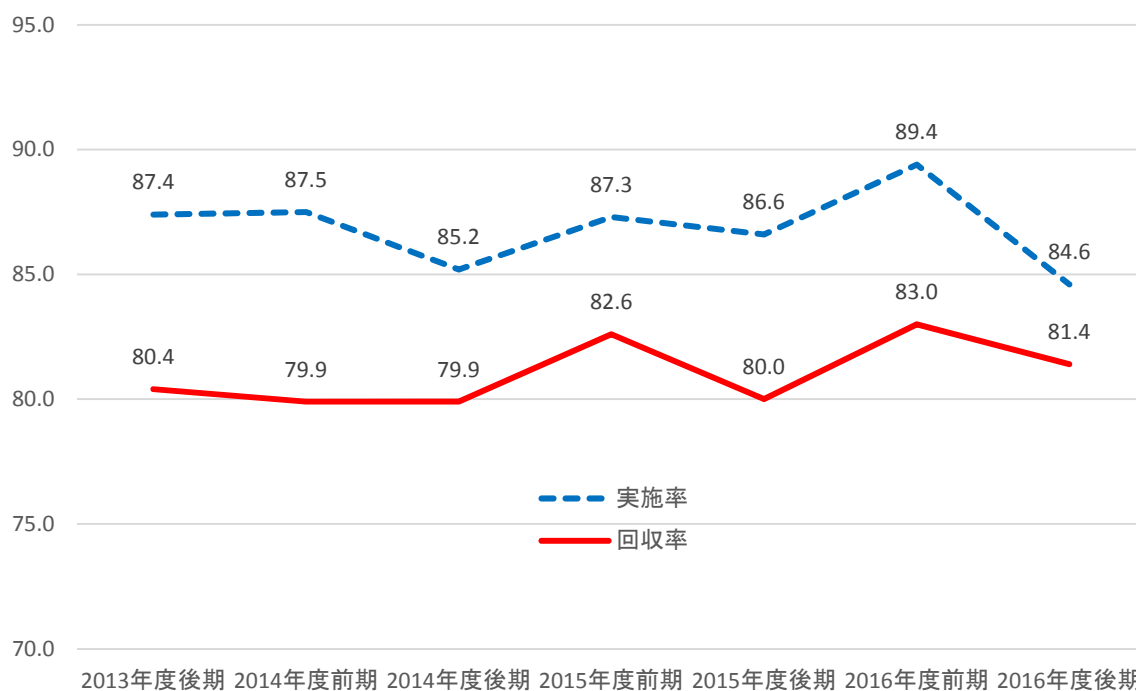
実施期間：2017年1月23日（月）～2月3日（金）

対象科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：357，実施科目数：302（実施率84.6%）（未回収55 全白紙0）

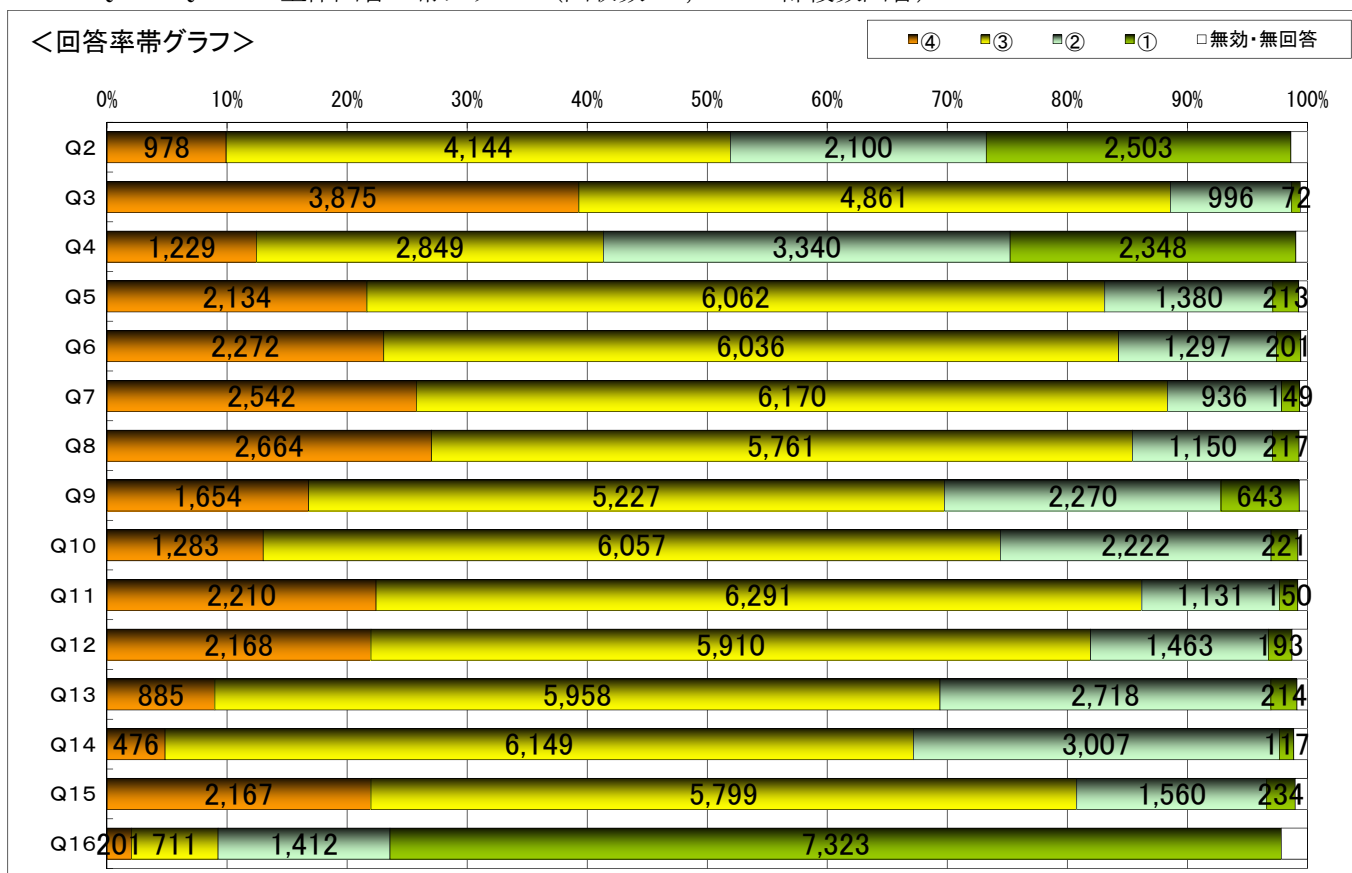
実施科目の履修者数：12,120名，回答者数：9,861名（回収率81.4%）

調査実施率と回収率の変遷（2013年度後期から2016年度後期）



2. 結果の概要

2-1. Q2～Q16 全体回答の帯グラフ (回収数=9,861 一部複数回答)



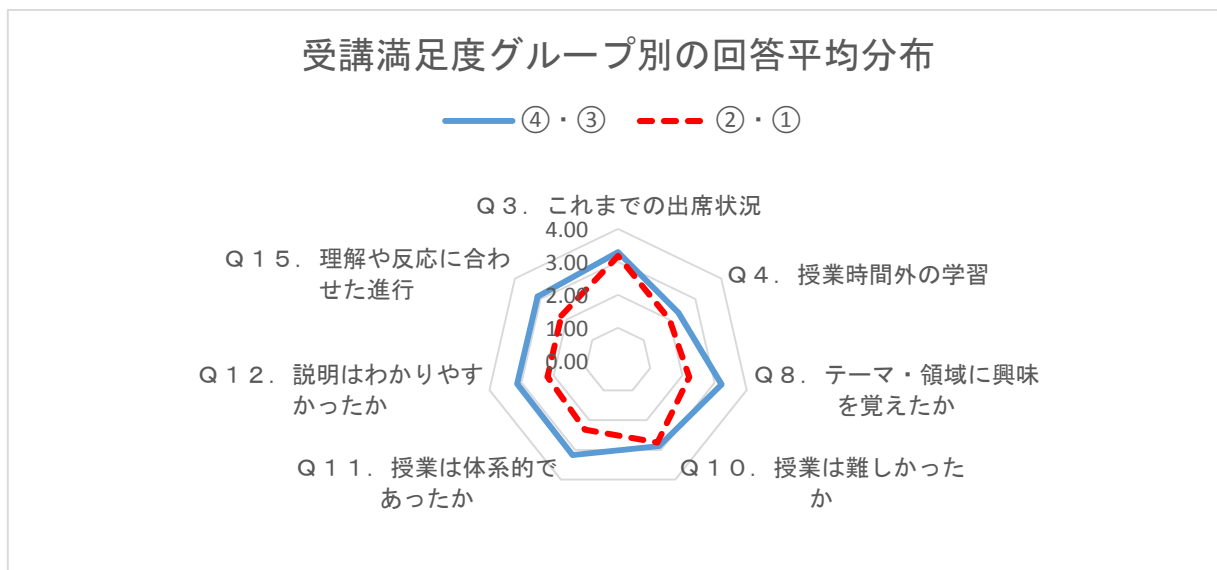
- Q 2. シラバスを参考にしたか (とても・やや・あまり・ほとんど・無効/無回答)
- Q 3. これまでの出席状況 (全出席・1~2回欠席・3~4回欠席・5回以上・無効/無回答)
- Q 4. 授業時間外の学習 (2H以上・1~2H・1H未満・ほとんど・無効/無回答)
- Q 5. 意欲的に取り組んだか (とても・やや・あまり・ほとんど・無効/無回答)
- Q 6. 評価する資格があると思うか (とても・やや・あまり・ほとんど・無効/無回答)
- Q 7. 授業の満足度 (満足・やや満足・やや不満・不満・無効/無回答)
- Q 8. テーマ・領域に興味を覚えたか (とても・やや・あまり・ほとんど・無効/無回答)
- Q 9. 教員になる意欲や動機 (とても・やや・あまり・ほとんど・無効/無回答)
- Q 10. 授業は難しかったか (難しい・やや難しい・やや易しい・易しい・無効/無回答)
- Q 11. 授業は体系的であったか (とても・やや・あまり・ほとんど・無効/無回答)
- Q 12. 説明はわかりやすかったか (分りやすい・やや・やや・分りにくい・無効/無回答)
- Q 13. テキストのレベル (難しい・やや難しい・やや易しい・易しい・無効/無回答)
- Q 14. 授業の進む速度 (進度) (速い・やや速い・やや遅い・遅い・無効/無回答)
- Q 15. 理解や反応に合わせた進行 (とても・やや・あまり・ほとんど・無効/無回答)
- Q 16. 過去の結果を閲覧したか (ほぼ全て・閲覧している・あまり・全く・無効/無回答)

<コメント>

FDの指標としてまず注目されるのは、「Q7. 授業の満足度」であろう。満足 (2,542)、やや満足 (6,170) 合わせて8,712 (88.3%、評定の全体平均3.13) という数字は例年並みであり、2016年後期の授業に本学の学生はおおむね満足したものと推察される。

2-2. 受講満足度グループ別の回答平均分布

2016年度後期 Q7. 授業の満足度について、満足グループ（「満足④」「やや満足③」）と不満足グループ（「やや不満②」「不満①」）グループに分けたうえで、それぞれ他の項目（Q3, Q4, Q8, Q10, Q11, Q12, Q15）とのクロス集計を行ったものをレーダーチャートの形で示した。

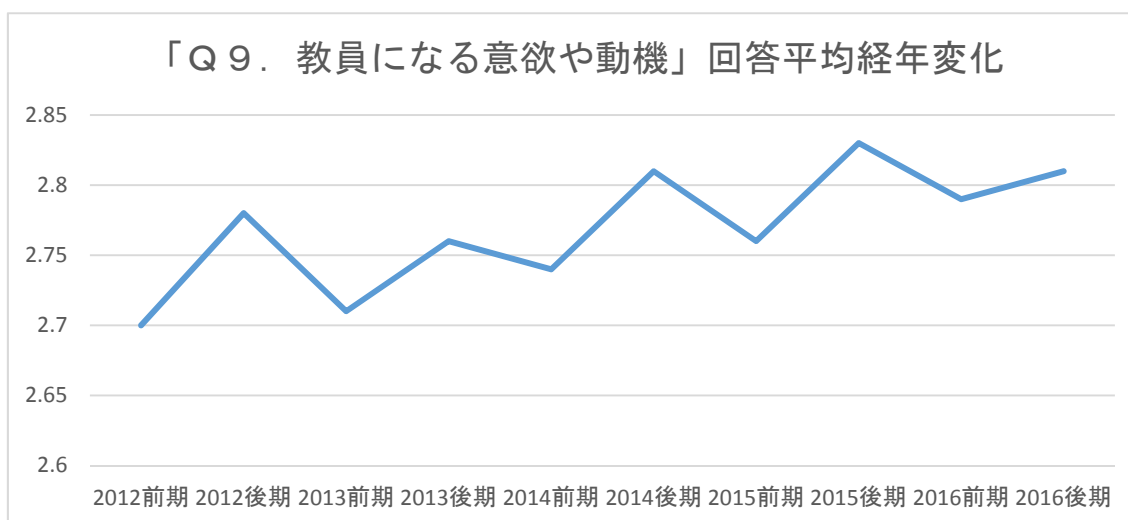


〈コメント〉

グループ別の平均点の比較では、「Q3. これまでの出席状況」「Q10. 授業は難しかった」に差がない。このことから受講満足度は、授業内容自体が高度であったとしても、興味関心の喚起（「Q8. テーマ・領域に興味を覚えたか」）、体系的（「Q11. 授業は体系的であったか」）、説明の分かりやすさ（「Q12. 説明はわかりやすかったか」）、進行の適否（「Q15. 理解や反応に合わせた進行」）といった授業自体の工夫によって高まり得るという傾向が推測される。

2-3. 「Q9. 教員になる意欲や動機」回答の経年変化

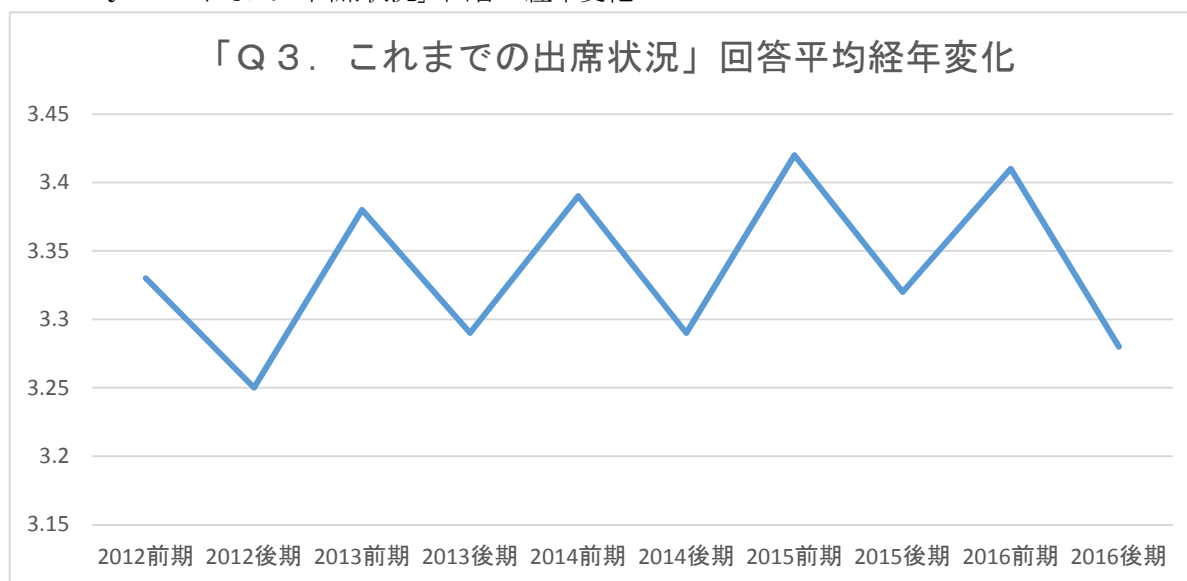
以下は、「Q9. 教員になる意欲や動機」の回答平均点の経年変化を示したグラフである。



〈コメント〉

ミッションとして課せられた教員就職率の向上には、学生の教職志望の維持・向上が欠かせない。この観点からQ9の経年変化をみると、ジグザグに増減してはいるものの、緩やかな右肩上がりとなっていることが窺われる。ただしごくわずかな差ではあるが、前期は低く、後期は高いという傾向性が見出される。この傾向が前期と後期での授業自体の構成によるのか、あるいは調査自体の性質によるのか定かではないが、いずれにしても教職志望の維持・向上は本学における教育上の重要な課題であるため、継続的に注視することが必要と思われる。

2-4. 「Q3. これまでの出席状況」回答の経年変化



〈コメント〉

学生に教員の資質・能力を確実に保証しようとするならば、学生の授業への十分な出席・受講が前提となる。どのような授業改善を行おうとも、学生がその授業に出席しなければ効果は期待できないからである。この観点から最近5年間の「Q3. これまでの出席状況」の平均点の経年変化をグラフに示した。点数は前期と後期で周期的にジグザグを描きながら、ほぼ横ばいと推測される。ただし、必ず後期に出席状況が悪化しているという点には、一定の対応の余地があるとも考えられる。例えば、気候の影響から後期に怠学傾向が助長される、インフルエンザの流行が影響を与えている、など原因は複数・複合的に考えられるだろう。原因・理由に即した対応が今後の課題となる可能性を指摘しておきたい。

2. 平成 29 年度前期中間アンケートの実施結果調査報告

学期末に実施する「授業アンケート」では実施の時期や集計に要する時間などから即時性がなく、授業評価の意味合いが強くなりがちです。そこでこの「中間アンケート」は、授業担当者がリアルタイムで学生の要望を把握するなど、授業改善の一助としていただけるよう実施をお願いしています。アンケートの対象科目は「授業アンケート」と同じ6名以上の受講登録がある全授業です。

平成 29 年度前期 中間アンケートの実施結果調査

回答期限：7月7日（金）

回答総数 68

問 1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した

はい 47 いいえ 21 無回答 0

問 2. アンケートを実施しなかった主な理由について（原文からほぼ引用）

【少人数又は実習等で人数が揃わないため】（7件）

- ・受講者が少人数（5名）だったため。
- ・受講人数が5人以下のため。
- ・受講者が少ない（5名）ため。
- ・実習等で抜ける学生が多く、授業内容を伝えることを重視したためアンケートの時間が取れない。
- ・実習等で学生がそろわなかったこと。
- ・受講者が少数であったため。また、理解度についても問題がないように思われたため。
- ・大半の学生が実習で休みだった為。

【時間不足のため】（5件）

- ・非常勤のため実施時間の確保がむずかしい。
- ・時間の余裕がなかった。
- ・授業進行に余裕がなかったため。
- ・実習等で抜ける学生が多く、授業内容を伝えることを重視したためアンケートの時間が取れない。（再掲）
- ・授業時間がタイトであること。

【毎回の授業で実施しているため】（4件）

- ・毎回、授業のおわりに小レポート（感想）を書いて提出してもらっているから、その中で意見等をきけているから。
- ・毎回小テストと質問および授業評価（トク名）をしていますのであえてしませんでした。
- ・毎回の授業で学生に授業に関する感想や意見を書いてもらい常に授業改善に努めています。
- ・毎時間振り返りシートを記入させているので。

【最終アンケートで確認するため】（2件）

- ・半期間全体を通じて評価をしてもらいたいと考えたため。
- ・後に実施するアンケートで十分だと思われる。授業後の対話を参考に改善している。

【忘失、確認不足のため】（1件）

- ・失念しました。

【その他】（7件）

- ・ (a) クラスの学生と (b) クラスの学生を5月末で交換した為。前期末？のアンケートは実施する予定。
- ・ 該当の授業で、複数の担当者がおり、アンケートの対象期間が自身の担当でなかったため。
- ・ 受講生多数（3科目で300人以上）のためアンケートを取っても処理できないため。
- ・ 授業をする方が有意義なため。
- ・ 実施要領がよくわからなかった。
- ・ 受講者が少数であったため。また、理解度についても問題がないように思われたため。
- ・ 毎年ほぼ同じ内容で演習を実施しており、学期末アンケートに基いて、改善すべき点はすでに改善している。

〈コメント〉

中間アンケートの実施は、授業担当者の必要性で判断していただければと考えております。どのような形で構いませんので、受講生の声を意識していただくきっかけとなれば幸いです。

問3. 使用した様式について

FD委員会の様式 41 独自の様式 6

〈コメント〉

独自の方法で学生の意見を汲み取っているという回答もございました。学生の意見を把握する効果的な方法を教員間で共有できる機会を、FD研修会としてご提供できればと思っております。

問4. 中間でのアンケートを実施することについて

意義があった／どちらかというと言義があった 43

どちらかというと言義がなかった／意義がなかった 3

無回答 1

〈コメント〉

学生の状況を把握する必要性を感じ、アンケート等を通して情報を得られることに意義があると考えている方が多くおられるようです。

問5. 授業中間アンケートの結果を受けて、授業方法・内容を変えた点があれば具体的にお聞かせください。

【実施・FD委員会様式使用】

- ・ 授業の進行スピードや難易度に関する事、“もう少し深く（難しく）” “少し速い” 等の意見の数により、難易度、踏み込みの度合を考えて変更した。
- ・ 授業がオムニバス形式なので、次回からの変更になるが学生の反応を受け止められるよう模索していこうと思った。
- ・ 教科書を（必ず該当ページを）提示した。
- ・ プリントが見えにくいという要望があったので字数の多い見にくいものについてはA4版からB4版にして印刷した。
- ・ 「文法説明がはやい」というコメントを踏まえ、プリントに要点を整理し、時間に余裕をもってじっくり解説するように変更した。
- ・ 視覚的資料の活用の割合を多くした。

- ・話すスピード
- ・学生の発言する機会をできるだけ設けるようにした。
- ・時間配分
- ・講義内容の調整、個別へのフォロー
- ・赤色チョーク使用は色弱の方には見えないと書かれてあったので、使用をひかえている。
- ・特にないが、反復する事に留意する。
- ・特にありません。気になったのは「教室が狭い」という意見でした。確かに狭く感じます。
- ・グループワーク等の時間配分やメンバー構成
- ・授業プリントが見にくい（写真が）という意見があり、プリントの設定等に気を配るよう心がけた。
- ・時々理解度を確認するよう改善した。
- ・ゆっくりていねいに授業をすすめるように配慮した。
- ・毎回アンケートをとっているのですが、あまり新たな発見がなかった。
- ・同じ列に質問が来ることが多いという声があったので、指名のやり方を変更した。
- ・Q5. 担当教員は受講の理解や反応を受け止めながら授業を進めていたと思いますか。のAn sにあまり思わないが1名あった。また内容が「とても難しかった」と受けとめている学生もいたので、分りやすさを心掛けた。
- ・授業の中で学生の答えや意見を求め、一方的な授業になりがちな所を改善してみた。

【実施・独自の様式使用】

- ・毎回コメントカードにて意見をすい上げています。
- ・授業方法についての要望、質問に対してその意図を説明した。
- ・特になし。
- ・現在最も興味のある内容（学生の視点から）を優先させ、シラバスの順序を変更した。

〈コメント〉

普段から学生の意見を授業に反映させる努力をされている方が多くいらっしゃいます。受講生自身が将来教員の立場になったときの手本としてくれることが期待できます。

問6. 学生へのフィードバックの方法について

【フィードバックしている】 口頭にて 33、文書にて 1

【特別なフィードバックはしていない】 12

- ・授業の内容に変化をつける事がフィードバックになる様な気がします。

【その他】 3

- ・授業方法の変更
- ・pptを用いてグラフや集計結果を示した。
- ・毎時間の授業用ワークシートで、学生の意見を記入させ、そのつど文書でフィードバックしている。

【無回答】 1

〈コメント〉

FD委員会では適宜フィードバックをお願いしております。今後のアンケート実施への理解を得るためにも、結果を学生に伝えていただければありがたく存じます。

問7. FD委員会様式の「中間アンケート」の設問について

【改善の余地あり】4

【現状のままでよい】40

【無回答】24（無回答だったのはほとんどがアンケートを実施していない回答者）

【改善の余地あり】

- ・ 講師控室にアンケートがほとんどなく、こちらで別途印刷した。Web上でできると、回収、保管の手間がはぶけるのではないか。
- ・ 記名式にしてもよいのでは。斎藤栄二先生はそういう主旨のことをおっしゃってられました。
- ・ 授業の難易度を聞く設問について、「難しい」と答えた場合、具体的にどこを難しいと感じているか尋ねられるとよい。
- ・ 他の授業でアンケートのフィードバックを受けたことがないという学生さんがほとんどでした。項目よりも教員が適切にフィードバックする必要性を感じます。授業は双方向で作上げるものだと思いますので。
- ・ Q5. は普通（中間）の選択肢があってもよいかなと思います。

【現状のままでよい】

- ・ 今回は実施できず申しわけありません。

〈コメント〉

中間アンケートの結果を授業改善に活用していただき、中間アンケートが定着してきたと感じられます。FD委員会で作成している様式は、期末に行われる授業アンケートからの抜粋ですが、具体的にコメントを記述してもらう部分が役に立っているようです。

皆さまから頂戴したご意見をもとに、中間アンケートや研修会等のFD活動をより一層意義あるものになりたいと思います。ご協力ありがとうございました。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田（委員長）、藪根（副委員長）、山口、神代、佐藤（美）
（事務担当：富家、山本、鈴木）